

ミラノのドゥオーモ

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

ミラノのドゥオーモ（イタリア語: **Duomo di Milano**、ドゥオーモ・ディ・ミラーノ）は、ロンバルディア州都ミラノの象徴である。都市の中心の同名のドゥオーモ広場に位置し、聖母マリアに献納されているドゥオーモである。ミラノのドゥオーモは500万人のカトリック信者がいる世界最大の司教区であるミラノ大司教区を統括する首都大司教の司教座聖堂であり、その大司教は2011年からAngelo Scola アンジェロ・スコラ枢機卿（1941年生まれ）が務めている。

このドゥオーモ広場の北にヴィットーリオ・エマヌエーレ2世のガッレリアがあり、そのままミラノスカラ広場（スカラ座）へ通じている。



地図

目次

歴史

建築と美術

内装

外観

ギャラリー

脚注

外部リンク



ミラノ大聖堂外観



ミラノ大聖堂内部短軸方向

歴史

ドゥオーモの最初の石は1386年に大司教アントーニオ・ダ・サルッツォとミラノの領主 ジャン・ガレアツォ・ヴィスコンティの要求により、古代からあったサンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂の場所に置かれた。

ドゥオーモのティブリオ（主尖塔、十字型通路の交差部）は、1480代まで放置されていて数人の建築家が設計に失敗し、その後の建設コンペにはレオナルド・ダ・ヴィンチが案を出して参加し、ブラマンテが案をまとめる役を行っている。レオナルドは四本の柱をメインとして12本の柱に重荷を分散させる案を出す（模型を作り、実際手稿にも思索過程が残っている。またブラマンテも示唆していた）が採用されず、最終的にマルティーニがそれを生かした上での結論を出す。^[1]

宗教改革による中断を経て最初の石が置かれてから約500年後の1813年に、ミラノ公国を征服したナポレオン・ボナパルトの命令により、フランスの資金で完成させた。19世紀を通じて、尖塔と新しいステンドグラスと交換などの全ての装飾が仕上げられた。

第二次世界大戦中の1943年にミラノは爆撃を受けたが、この建物は連合国側の判断で爆撃を逃れた。そして大戦が終わってすぐ、ドゥオーモは大部分を修復されると共に、木の扉を青銅製に取り替えられた。



ミラノ大聖堂内部長軸方向

建築と美術

ミラノのドゥオーモは世界最大級のゴシック建築であり、全長158m、幅92m、高さ108mの威容を誇る。5世紀もの歳月をかけて多くの芸術家によって完成された。階段またはエレベータによって聖堂の上に登ることができる。ジュゼッペ・アルチンボルドは、ステンドグラスのうち、〈ロトと娘たち〉や〈アレクサンドリアの聖カタリナの生涯〉などのデザインに携わっている^[2]。

内装

ドゥオーモの体積はフランスのボーヴェ大聖堂に次いで世界で2番目で、広さもバチカンのサン・ピエトロ大聖堂に次いで2番目である。

外観

ドゥオーモには135本の尖塔があり尖塔の天辺にはひとつひとつに聖人が立っている^[3]。一番高い位置に金のマリア像が輝いていて、昔はこのマリア像より高い位置に建物を建ててはいけないとされた。



主尖塔

ギャラリー



屋根と飛び梁

屋根の上は登れる^[4] 修復中の尖塔群

大聖堂内部



壁面と窓の装飾



1386年に最初の石が置かれたことを記念するプレート 窓内面



1909年のドゥオーモと広場



壁画

脚注

- ¹ [^] 長尾重武 (1994.8). 建築家レオナルド・ダ・ヴィンチ. 中央公論社
- ² [^] 『芸術新潮』2017年7月号、新潮社、35 - 36頁。
- ³ [^] 船本弘毅『知識ゼロからの教会入門』幻冬舎、2015年、113頁。ISBN 978-4-344-90293-0。
- ⁴ [^] ルキノ・ヴィスコンティ監督の映画『若者のすべて』でドゥオーモの屋上で、絶望的になって走るアニー・ジラルドをアラン・ドロンが追いかけるシーンが有名である。

外部リンク

- ミラノのドゥオーモ 公式サイト (<http://www.duomomilano.it/>) （イタリア語） （英語）

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=ミラノのドウオーモ&oldid=88719686>」から取得

最終更新 2022年3月26日 (土) 05:57（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。